めいろうこどもえん　5月園だより

２０２０年度　年主題　〈こころが満たされる〉

0･1･2歳児５月主題「みつける」

月のねがい

◎神さまのお守りの中、園生活に慣れる。(0)
◎周りのようすに気づいていく(0)
◎気持ちを受け入れられ、安心感を覚える(0)
◎さんびかに親しみ、心地よさを感じる。(1.2)
◎屋外の光や風の中、春の花や虫などを見つける(1.2)
◎自分の思いを表す(1.2)

3･4･5歳児５月主題　「気づく」

月のねがい

◎神さまが創られた世界に目をとめる。◎春の自然、おもしろいこと、楽しいことに気づき関わろうとする。◎自分の気づいたこと、思いをまわりの人に受け入れられる。
◎神さまの創られたものの素晴らしさや、おもしろさや、深さにきづく。
◎戸外での遊びが増え、草花や虫、小動物に触れながら、命について考える。
◎困ったことや失敗があっても、保育者の見守りの中で自分で気づいたり、考えたり、やりなおしたりする。

今月の聖句「平安あれ。遠くのものにも近くのものにも平安あれ」

イザヤ57:19

新型コロナの影響が世界中を覆っています。健康面においても、経済的な面においても、先行きの見えない戦いが続いています。身体のケアも必要ですが、同時に心のケアが必要とされています。この事態を受けて、読み直されている本があります。カミュの書いた小説「ペスト」です。人類史上最初で最大のパンデミックを起こしたと言われるペスト(別名「黒死病」)は、ヨーロッパを中心に14世紀から15世紀にかけて断続的に発生しました。当時の世界人口の22%にあたる一億人以上のいのちが犠牲になりました。不条理とも言える事態に、人はどのように向き合えばいいのか、それがこの小説の大きなテーマです。その中に印象深いフレーズが出てきます。「人が常に欲し、そして時々手に入れることができるものがあるとすれば、それはすなわち人間の愛情である」。非常事態や不条理な中でこそ、人のささやかな思いやりや愛情が必要だと訴えるのです。そして、そのような思いやりや愛情がある中で、人は心に安らぎや平安を見出すことが出来ると訴えます。人の罪が犯す不条理や天災による苦しみを隠さず描く聖書は、同時にそのような人々に注がれる神の安らぎを示します。「平安あれ。遠くの者にも近くの者にも平安あれ」(イザヤ書57:19)という今月の聖書のことばは、神さまのそのような思いを描いているのです。

教会協力牧師　池田基宣

5月の行事予定

７日（木）	交通安全教室
８～２２日	家庭訪問
１９日（火）	弁当日
１４日（木）	５月誕生会
２５日（月）	避難訓練
２７日（水）	内科健診
２３日（土）	家族の日参観

6月の行事予定

２日,10日	弁当日
６日（土）	職員研修
１１日（木）	６月誕生会
未定	歯科健診

～交通安全教室～

～給食試食会～

～田植え～

～消防署見学～

～内科検診～

～誕生会～

新しい環境の中で・・・

新年度がスタートし、早くも１ヶ月が経ちました。４月の初めは小さなお友だちは泣き声の大合唱でしたが、少しずつ笑顔で過ごせる時間も増えてきました。そして、安心できる居場所を見つけつつあるのか、先生たちの胸の中や添い寝でスヤスヤ眠るもも組やあじさい組のこどもたちです。３～５歳児さんも慣れない環境の中で、少し背伸びをしながら頑張る姿は本当に癒やされます。また、４・５歳児さんは、一人一役の係のお仕事もスタートしました。絵本係、電気係などなど・・。私がその係の仕事をうっかりしようものなら、「それ、私がするんだったのに！」と言わんばかりの顔つきで近づいてきます。自分たちのやるべき事を成すと、それが自信となり達成感を味わうのです。そこから、自分の居場所が見つかり成長に繋がっていきます。何気ない日常の出来事の中で、小さな成功を見逃さず、なるべく褒めることを心掛けて関わっていきたいと思います。

今、コロナウイルスの影響で生活や行事等の自粛を余儀なくされている子どもたち。これから長い連休にも入り家庭で過ごす時間も多くなります。自粛が解除されて通常の体制になっても、登園を渋ることもあると思います。なかなかリズムが取り戻せず、やきもきすることもあろうかと思いますが、ピンチの後はチャンスありです！この機会に命の尊さ、何気ない日常のありがたさを共に伝えて参りましょう。

全員が揃い園生活が元に戻ったら、楽しいキラキラした時間をみんなで楽しみたいと思います。試食会や４月生まれの誕生会の延期や家庭訪問の短縮など、様々にご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほど宜しくお願い致します。

森山

目の前の真実に目を向ける

新緑の木々の薫りが園庭を包み、豊かな自然の息吹を感じさせます。今が盛りの月見草や花々が、美しい彩りを添えて微笑んでいるようです。子どもたちの泣き声や笑い声に包まれる空間は、生命の活力に満たされ愛しいもの。すべての人にとって平安が与えられますよう祈ります。

非常事態宣言の対象が全国一斉となって十七日が過ぎました。現時点では確定はしていませんが、どうも一ヶ月ほどの宣言延長が濃厚のようです。自治体の要請もあり、本園も登園自粛をお願いしておりますが、全体の約半数の子どもたちが自宅で過ごしています。お仕事によっては、就労に影響の出ているご家庭もおありかもしれません。

国難とも言えるコロナウィルスの感染拡大。症状が悪化して亡くなられる方は高齢者とは限らず、既に日本では四五〇人を超える方が命を落とされている状況です。その陰で、感染者の命を守るために命懸けで働いておられる医療従事者のことを思います。マスクを始め自らの感染を守る物資が不足しているようです。そのような過酷な現状に心を動かされ、日本でも有名人と言われる方たち(プロスポーツ選手、アーティスト、芸能人等々)がマスクや多額の寄付をされていると聞きます。もちろん多くの匿名の方も。まことに素晴らしいことですが、被災地支援の際もそうであったように、こういう行為を行うと、決まって売名行為だという批判が起こるものです。それに嫌気がさし一般の方は匿名になりがちなのかもしれません。日本の社会では、親切心を行動に起こそうとするとき、周囲の目や評価、ねたみ、批判を恐れて顔を隠してしまう風潮があるようです。愛を行動に表すことを「親切」と言いますが、なぜ「親を切る」と書くのでしょうか。切ると書くと物騒に思えますが、「切に思う」や「身銭を切る」と使われるように、強く親しみを持って人に尽くすことだとか。確かに愛を行動に表すことは勇気のいることです。聖書に次のような記事があります。当時不治の病であった重い皮膚病を患った人がイエスに癒しを求めに来ました。この病に罹ったものは、人里離れたところに隔離されなくてはなりません。彼を見た周囲の群衆はあわてて離れましたが、イエスは手を伸ばし彼に触れ、その病を癒やしました。イエスは批判を恐れず、目の前で助けを必要としている一人の人に目を向けたのです。周りの人々の目ではなく。親切は自分の心にある願いや思いを満たす行動です。決して見返りを求めるものではないことを信じ、素直にその行為に讃美を贈りたいものです。

子どもによっては、そろそろ疲れが出始める頃です。連休をご家族で楽しまれながら、どうぞ十分な休養もお願いしたいと思います。梅雨時を元気に乗り越えるためにも、毎日の変化に応じた対応や食事・睡眠に留意し、保護者の皆様のご協力をいただきながら楽しい園生活を支えていきたいと思います。

園長

運動神経のベースが作られる乳児期のからだ遊び

【ねんね・寝返りの頃】　～うつぶせでこんにちわ～
うつぶせの練習をしながらママと目を見合わせて遊ぶと、首や背中の筋肉がしっかりしてきます

【ねんね・寝返りの頃】　～鏡でこっちだよ～
手鏡を見せながら、ゆっくり上下に動かし、追視の練習をする事で、目や脳の刺激になります

【ねんね・寝返りの頃】　～体ひねり～
足をバタバタするようになったら、両足を持って右、左と優しく体をひねってみましょう。寝返りの感覚をつかみやすくなります

【おすわり・はいはいの頃】　～ボールでころころ～
ボールを転がしてキャッチ”！
ボールを追って動き出します

【おすわり・はいはいの頃】　～何でもビリビリ～
新聞紙をちぎっても、レタスやキャベツでもＯＫ！
集中しながら指先を使う遊びは、脳へのいい刺激に

【おすわり・はいはいの頃】　～はいはいでＧＯ！～
はいはいは、腕や足の力をつけるためにも積極的に丸めた蒲団の上や、パパの膝の上をハイハイしながら

【立っち・あんよの頃】　～グラグラバランス～
パパやママの膝の上に立たせて、手をつないだままグラグラ揺らします。慣れたら手も離してみて。バランス感覚が養えます。

【立っち・あんよの頃】　～押せ！押せ！段ボール～
玩具などを入れて少し重くした段ボールを両手で押して遊びます。力を入れて押すことで体幹が鍛えられます。

【立っち・あんよの頃】　～はだしで探検～
立っち・あんよができるようになったら、室内はできるだけはだしで歩かせて。はだしで歩くと足裏の感覚が刺激されてしっかりと歩けるようになります。脳への刺激にもなります。

☆運動神経がいいとは・・
まわりの子よりも「足が速い」「バランス感覚がいい」「俊敏に動ける」といったことではありません。脳が指令を出して、上手に体を使えるようになること。そしてそのベースを作られるのが乳幼児期です。脳や視覚、聴覚などの神経は１０歳頃までにほぼ完成します。そのため乳幼児期は特に五感を使って遊んだり、運動したりすることを心がけて下さい。

横浜市東部病院小児肝臓消化器科　十河 剛　医師